



路 政 僧

海軍制限を協定して米の猜忌を助勢する如きは、萬國平和の所望奈邊に在るや、露國の如く骨抜き條約は言はぬが後世に輝く人類平和の確證さまで賞揚するを躊躇す、各國互に交詢を期せ、不戰條約の美名に陶醉して各國が奔放不霸の米國外交に引きつられつ、在るを悲しむ、憶、萬國平和は遂に夫れ痴人の夢か。

▽ △

けでは條約の効果を疑ふ、契約違反の行爲に對し何を以て責めむとするか、若し國際信義に依るにせせば大袈裟に條約を締結するに不及、蓋し信義は無用の戰爭を是認せざる筈、吾人特に之を言ふ所以は、不戰條約を掲唱した國家が海軍の擴張を策して各國軍備の競争を挑發し、條約に賛成しながら英佛は交渉論議一年有半、不戰條約遂に調印の域に進む、萬國平和に一步を進めたものと言ふべきが、併し戰爭廢棄を宣言し、國際間に發生することあるべき爭議乃至紛争の解決を、平和的手段に依つて處理することを約するだ

けでは條約の効果を疑ふ、契約違反の行爲に對し何を以て責めむとするか、若し國際信義に依るにせせば大袈裟に條約を締結するに不及、蓋し信義は無用の戰爭を是認せざる筈、吾人特に之を言ふ所以は、不戰條約を掲唱した國家が海軍の擴張を策して各國軍備の競争を挑發し、條約に賛成しながら英佛は

併し之に依つて世界平和―人類平和の空氣を濃厚ならしめた、けは確かなこと、更に米國と國際聯盟との關係に一步を進め、聯盟決議が米國を掣肘するに至らば更に妙、尙進むで進行の遅々たる軍備討論會―軍縮會議の議事を進め得ば人類平和の一進展可評。好戰國家を評せらる、我が國―國民

は、此世界平和の思潮に鑑て。傳統的に有する錯覺、軍武人の思想を根柢より洗除して軍閥の跳梁を根絶し、軍備の縮少より生ずべき國家財源を人類の平和、國民文化生活の資に供せ、ここかの政黨が強調する軍部大臣官制の如き今は論議の餘地が無い、即行が肝要。



兎に角革命を成就せしめた支那、何處かの國に眞似つて通商條約廢棄迄力むた、成功の勢に乗じた青年革命家の空想的手段としては已むを得ない、併し國際條理の下に生活する總ての國家が此國際的破壊行爲を是認すべき道理が無いと思つたに、國際信義を高唱する米國が其の持する對露政策を忘れ

たやうに米支新條約を締結す、列國を驚かし其の對支政策に一頓挫を來たさしむ、出し抜けを喰つた英大國の態度が見物であつたのに、之も亦條約の改訂を協定す、而かも米が策した關稅條約の改訂範圍を突破して概括的條約の解決に同意を表す、國民政府が國際國家の承認を受けたものとして喜ぶのも無理は無い、併しながらワシントン會議以來列強協調の下に解決を公約した關稅問題を單獨に解決し、商權を維持したさに支那の勸心を買ふこゝに之れ力む、義を捨て理を忘れて蟬の甘きに附くが如き英米兩大國の態度、氣の毒にもあり亦淺ましい。

會議は中央集權と地方分權との論争で首領株は離反し、東三省や山東の統一未だ成らず、其の前途や測り知るべからざるの狀、假令再び兵火を以て統一の大勢を破壊するの愚を繰返さざるにせよ、政治的安定を認むるには尙遠いではないか。

正義公正を主義とする我國は、之に追隨するの必要がない、併し英米の態度は我の持する對山東對滿洲政策に對する一種の間接射撃、政府は之に對して確信を有するや。

曩には對支政策に關する根本方針を決定するが爲に外交調査會の設立を企圖し、林男を起用して張學良を勸告せしめ、忘れられたる政界の古武士三子を集めて對支策を議する等、政府の意

の存するところを疑はしむ。固より對支策の如何が我國の權益に重大な影響あるもにせよ、言はゞ「外交策に不過、是等國策遂行の任務は擧げて責任制の内閣に在る筈、然るに何事ぞや、内閣を組織する政黨と相容れざる民政黨總裁を外調に誘致せむと策するが如き、自らを侮る甚敷もの」と可言、拒絕さるべきは固より當然、之が爲に却つて反對黨をしへ現内閣の對支政策に關する無能を吹聴せしめたに不過、三子の招待にせよ、何を談したかは判らぬが、政黨内閣として其の政策の決定を閣外の人に求め、理あらば之に倚らむとするは餘りに時代を解せざる遣り方、吾れ政友會内閣の爲に惜む。

林男の張學良勸告、内閣と何等縁故

が無いと強辯しても、林領事立會の下に於ける會見では政府の派遣員たる知れたこと、夫れが外交界に人が無かつたに依る備兵として是認されても、南北妥協を阻止するが如き勸告は大なる誤、蓋し我國としては、支那が統一され支那國民が永年に互る戰禍より脱して文化生活に就くことを希ふ、唯だ我が利權擁護の爲に山東や滿洲を、不法に通商條約を廢棄するが如き南方政府の暴漫政治下に置くを排することに在るのみ、其の方途としては南北妥協を排するに非ずして寧ろ進むで夫れを統一せしめ我的要求を容れしむるに在る、蓋し勸告に依つて假令山東や滿洲の野に青天白日旗が掲揚されないにしても、夫れは唯一時的のこゝこ、三民主義を標榜する革命的風潮は支那國民全般の持つる否むべからざる事實、此國民心裡の大勢は張學良や林男の二三に依つて阻止し得べからざるところ、之を強て爲さむとせば却つて南北の化合を進展せしむるは必定、夫れに依つて吾の要求を容れしめむとするは無理、下手な外交と可言。

内、政治不整、外、不法を敢てする支那に臨むには硬化的態度も時には亦可、此意味に於て實行するに不可能な民政黨の軟弱外交に勝るこゝこ數等、併し夫れは一時の方便に不過、内は輿論の反映に鑑み外は情勢の實相に明策して終局的解決に力むるこゝこを吾人の望むところ、明治維新當時に於ける我國情を照察し支那國民復興の爲に革

命を指導するにこそ、隣國日本の爲すべき責務、現内閣之を策するに餘りに消極的なるを惜む。

▽ △

例の床次竹二郎氏、突如民政黨を脱し第三黨の樹立を宣言す、曰く、内政不干渉の美名に泥みて姑息退嬰主義の下に於ける對支政策を非難し、積極的に既得權益擁護の必要を力説し、舉世滔々眼先き主義間に合せ主義乃至便宜主義に墮して思想問題に對するの非を責め、國策の樹立に付高遠の志趣なく深遠の計策なきは刻下政黨の通弊なるを以て、人心の緊張を圖り教育制度を更改して民心を一新するの必要を説き、之を策するには現に在る如き勢力

相若ける二大政黨の對立を以てしては到底之を望む能はざるを以て第三黨を樹立し、刻下の危局に面して現状打開の先驅たるを期す。

癡耳に水の民政黨は床次氏の無節操を責め、政友會は之に依つて來るべき議會の無事を僥倖す、政治季節を前にして政界に投じた波紋は頗る大、併しながら政友本黨組織以來轉輾政黨を代へ社會の嘲笑裡に民政黨も強き意味の提携を爲したる床次氏に、今更政治道德の節操を求むるのは求むるのが間違、寧ろ卿等が提携して民政黨を組織したのが間違、組黨以來床次一派は民政黨員と言はれても、實は政友憲政の間に介在して生活した舊態と變る所がなかつた、言はゞ黨内で特殊扱を受け

いつかは分離すべく運命附けられたもの、唯だ其の時機が早かつたに外ならぬ、不自然の化合は自然的に分離する自然原則あるを知つて、今更愚痴を言ふ勿れ。

宣言は這裡の事情を物語る、對支政策も思想問題は政友に財政緊縮は憲政に右顧左眊しての決意、之に則り所謂第三黨が前者を採るも後者に追隨するも政界の安定すべき理由奈邊にかある、人あり言ふを已めよ、曰く、二大政黨交互に政權を取るは政黨政治の理想なりと言つた床次氏に、政治家の合理的態度を責むるだけの價值がない、併しながら不合理な政界の現状を打開する自稱責任者に合理的確信の持合せがないとせば、這般の脫黨乃至新

黨樹立は理窟抜きの行爲、一時の出来心で評して可、何が故に竿頭一步を進めて政黨の小黨分立論に及ばざりしか

若し脱黨に依つて民政黨の持する政策に變革を來すとせば、床次氏の脱黨、或は無意義ならざりしか。

を疑ふ、氏が宣言に言つたやうに人信無くむば立たず、こせば第三黨の樹立

大震災災後早や五週年、罹災市民は何事も復興へ改造へ努力して街形漸く整はむとするこき、何時迄も改造せられざるものは東京市會を構成する議員連ミ市當局。

も亦不可能事と可評。

板舟權補償に關する不正問題を動機として瓦斯問題乃至京成電車乗入問題、等々と、市會議員を背景とし不正の事件摘發さる、東京市會—東京市醜團を想はしむ、手懸り無いこまで噂された三人殺事件を檢舉し得た警視廳も、此事件に限つて旨、檢事局よりの

民政黨に取殘された舊本黨員、情に動くか理に生くべきか、其の去就に惑ふ、床次氏自身は勝手に脱黨して追いつて來いと言ふ、人生陳箠たる勿れ。

醜の亦醜と可言。市民は醜議員を責むるに先つて是等のものを選擧したる不覺を悔悟せよ、市廳舍建設の爲にする愛市公債を買ふ前に、市會淨化の根本を策せ、夫れが市民の責務。

第三黨が幾何の黨代議士を得るやは頗る疑問、政治が私情私利に支配せられざる限り其の前途や樂觀を不許、併しながら頭數政治が是認せらる、秋、

誰が大聲論議す、曰く自治權の擴張、と。

所屬代議士數名を失つた、けでも民政黨の損失、之を招來したのは同黨の對

支軟弱外交策と思想問題無關心の禍、

支軟弱外交策と思想問題無關心の禍、

も、此事件に限つて旨、檢事局よりの

支軟弱外交策と思想問題無關心の禍、

も、此事件に限つて旨、檢事局よりの

支軟弱外交策と思想問題無關心の禍、

も、此事件に限つて旨、檢事局よりの

●

×

×

×